

# 胃・大腸内視鏡検査について

健康診断で胃・大腸検査を指摘された方へ

次のような症状の時は検査を受けてください。

## 胃の場合

- 検診で要精査となった
- 食欲がなく痩せた
- みぞおちが痛む
- 胸やけが続く
- 食事がつかえる感じがする

## 大腸の場合

- 便潜血検査で陽性
- 便秘と下痢をくりかえす
- 下血または血便
- 便が細くなった

心配しても始まりません！ どうしたら良いかお教えします。

健診でチェックされたという事をマイナスに受け止めることはありません。むしろ、運が良かったと考えるべきかもしれません。

つまり、胃癌・大腸癌を早期の段階で発見出来るチャンスかもしれないからです。

現在、行われている消化管(胃・大腸)の検査の主役は何と言ってもファイバースコープなのです。

その理由は……

- ①結果が検査当日に判ること
- ②結果の裏付けとなる生検が出来ること
- ③癌の原因となるポリープの切除が出来ること

以上、他の方法では不可能な事柄を可能にするからです。

当院では、胃カメラは苦手という方に鼻から挿入する経鼻内視鏡も用意しております。

また、がんの発見精度向上を可能にする NBI システム(狭帯域観察)を導入いたしました。

## 検査を担当する医師

院長 小松崎 薫

日本消化器内視鏡学会専門医

指導医

日本大腸肛門病学会専門医

当院は内視鏡検査の専門医がいる病院です

## 内視鏡検査とは

鼻から挿入して行う経鼻内視鏡検査には、「苦痛が少ない・吐き気が起きにくい・検査中も会話ができる」というメリットがあります。

内視鏡が舌のつけ根を通らず、のどに触れることがないため、挿入による不快や吐き気をほとんど感じることなく検査を受けることができます。



また、経鼻内視鏡検査では、検査中でも医師と会話ができます。質問をしたり、気分を伝えたりできるので、安心して検査が受けられます。

経鼻内視鏡は一般内視鏡と比較すると画質がやや劣り、行える処理も限られます。また、患者さんの容態によっては鼻からの挿入が難しい場合もあります。

しかし、がんは早期に発見すれば治る可能性も高く、より負担の少ない経鼻内視鏡の登場によって、内視鏡検査がより身近なものになることが期待されています。



※一般の内視鏡と極細内視鏡



細くて柔らかな管(ファイバー)の先に超小型カメラを付けた内視鏡を体の中に挿入し、内部の状態を観察し撮影する検査のこと。代表的なものが胃カメラで、ほかに気管支、食道、小腸、直腸、大腸、膀胱などほとんどの管状の臓器で使用される。

細胞や組織を採取して良性か悪性かを判断することによりがんの早期発見に有効である。また、ポリープや早期がんの切除、胃潰瘍の出血を止めるなどの内視鏡治療も出来ます。

## 内視鏡検査を希望される方へ(上部・下腹部内視鏡)

**上部内視鏡検査** 食道、胃、十二指腸の検診を行います。(電話予約が必要です)既往の疾患や内服中の薬、特別な事情のある方は、外来受診後、検査日を決定させていただきます。

**下腹部内視鏡検査** 大腸の検診を行います。(電話予約が必要です)前処置の下剤が必要になります。検査前に現在の症状、検査治療に対してのご希望などをお伺いしますので一度ご来院頂きます。

検査を受けられる方の為に個室を用意しております。これは大腸内視鏡の場合、前 処置を含めますと半日がかりになりますので、プライバシーを守るためです。

検査は、病院長 小松崎 薫が行います。